



第6号

令和6年10月31日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ ちょっとしたこと、人生は好転する！

「さざんか さざんか さいたまち たきびだ たきびだ おちばたき あたろうか
あたろうよ しもやけおててが もうかゆい」童謡「たき火」の二番です。
咲く花がめっきり少なくなって木枯らし一号が吹くころ、冷たい北風にもめげず、じっと耐えて花を咲かせる姿から、花言葉は「下向きな愛」「謙虚」、またその寒さにも負けない凛々しい姿から「困難に打ち勝つ」「理想の恋」などが名付けられました。渋めの一輪挿しやブルーのカットグラスなどに生けると、和の雰囲気を楽しめます。

私は時々夢を見ます。それは目覚める少し前の夢ですと、目覚めてもしばらくは残るもので、まどろみながらはんすうして居ると、自分の声として自分の内から生れて来た事として、現実味を帯びて考える事があります。目の前の事に心を奪われて生きる日々なのですが、今の君は、それで良いのかい、一生懸命生きてるのかい、そんな声が、天からか、父母の声なのか、自分の心の内からなのか分かりませんが、いつも聞こえて来るのです。しかし、自分で見る夢は、確かなものと受け止めて実行したくなる事が、これまでに幾つかありました。よわい70歳代の半ばを迎えますと、何と言っても決め事が遅くなるものです。あれやこれやと思いを巡らすのです。物事を肯定して生きることが、失敗も少ない悔いも残らないと言う思いで生きようとして居ますが、残念ながら掘り下げれば出て来るものです。幾らでも出て来ます。今のあなただったらどうしますか？と問われたら、やっぱり同じやり方で生きるんだろうな！思うのです。今までの生活の一コマコマを取り上げてみても、その時はその時で、逃げたりしながらももがきながら不安を抱きながらも前を向いて生きたのだろうと思いたいのですよね。それでも、何かのきっかけで、今につながっている事は、どなたにも意見としておありかと思えます。それは、大きなことなのかとも知れませんが、ちょっとしたきっかけやちょっとした出会いや言葉が心に響き、今に続くことも度々あることも経験してきました。それは思い起こしても愉快で楽しい出来事で、生涯の宝物になります。これは、求める心が無くてはなりません、自分が置かれている周囲から思わぬ形で舞い込んで来たり、自然や社会から頂いて育てられたと言う実感も皆さんもお持ちだと思えます。

さて、幼稚園に目を転じてみますと、幼稚園の生活の中にも沢山の「きっかけ」が毎日毎日生れております。あらためて申すまでもなく、幼稚園は人間の幹を作るところ、土台を作るところです。生涯にわたって必要な心の柱を作るところです。一年の季節の変化の中で、自然の凄さや不思議なことごとに感動し、自分と違う価値観を持つ人達から歓びを貰い、全てが次なる意欲につながるのです。毎日「きっかけ」を体験しております。この時代に必要な意欲を育てる体験を大事にしてやることなのだと思うのです。この幼児期に器を広げて、ゆたかに生きる人生を応援して参りましょう！